

## 「コアジサシ保護活動の現場から」

講師： 北村 <sup>わたる</sup> 巨

NPO 法人リトルターン・プロジェクト代表  
東京都市大学講師



キリッキリッという独特な鳴き声とともに南の国から渡ってくるコアジサシは、春になると水辺に姿を見せます。その魅力はなんとといっても身近で繁殖を観察できることではないでしょうか。5月ころになると海辺の砂浜や河原の砂利などで集団で繁殖して子育てをする姿を見ることができます。しかし近年になり、開発や土地利用の変化によってコアジサシの好む裸地が少なくなってきました。住む場所を失った結果、コアジサシはその数を減らし、絶滅危惧種に指定されるまでになりました。自然環境に営巣できなくなったコアジサシは裸地を求めて人工的造成地などに営巣するようになり、そして最終的には建物の屋上に営巣するようになったのです。

NPO 法人リトルターン・プロジェクトは東京都大田区にある森ヶ崎水再生センター屋上で営巣を始めたコアジサシを発見したことを契機に発足された、自然保護団体です。2001年から屋上で営巣するコアジサシの保全活動が始まり、15周年を迎えています。その活動は多岐にわたっていて、保全活動の一環としてカラス類などの天敵に対する捕食者対策を行ったり、雑草を除去してコアジサシの好む環境を生み出したりしています。その他にも、地元のイベントに出展しての環境教育や、海外の研究者なども巻き込んだ調査研究活動なども行い、コアジサシの保全に関する様々なことを行ってきました。

リトルターン・プロジェクトが多様な活動を行ってこられた背景には、行政・市民・研究者などの多様な関係者と協働していることがあると思います。発足した当初から東京都下水道局や地元の大田区と協議しながら活動の展開を行ってきました。また、調査や整備作業などでは市民からのボランティアを募り一緒に活動をしています。さらに調査研究活動の成果を学会や論文で発表するなど、学術的な成果もあげることができました。

本講演ではコアジサシの魅力を伝えながら、リトルターン・プロジェクトが取り組んできた市民と共同する保全活動についてご紹介できればと考えています。

### ★講師プロフィール

1979年、千葉生まれ。専門は行動生態学・保全生物学・鳥類学。国際基督教大学教養学部を卒業後、東京大学大学院農学生命科学研究科において、ツバメの行動生態学を研究し、博士（農学）を取得。一般財団法人電力中央研究所の特別契約研究員を経て、現在は東京都市大学環境学部にて講師をつとめる。2004年よりNPO法人リトルターン・プロジェクトのメンバーとして絶滅危惧種コアジサシの保護活動を行い、2012年からは代表に就任している。また、Liferbird代表として鳥類研究の普及と発展を目指す活動を行っている。



日時：平成 28 年 11 月 5 日（土） 13 時 30 分～ 15 時 00 分  
場所：アビスタ（我孫子市生涯学習センター）ホール  
主催：我孫子市鳥の博物館・（公財）山階鳥類研究所